

より性能の高い

製品開発を目指して

昭和木材株式会社

高橋二郎さんに聞く



木とともに100年

—— 昭和木材株式会社の総師として、道内屈指の業績を上げておいでになる高橋さんは、また、北海道産広葉樹協議会々長、北海道木材協会理事、北海道集成材工業会副会長、北海道合板工業組合理事など多くの要職に就かれ、幅広くご活躍なさっております。今日は、いろいろお伺いしますが、お聞きするところ、高橋さんのお家は木材とのご縁に永い歴史をもっておられるとか。そのあたりからお聞かせください。

高橋 明治36年、祖父の高橋丑松が北海道開拓の志に燃え、岩手県より団体を率いて上川郡東旭川村^{ベッペン}米飯（現、旭川市東旭川町）に移住しました。それ以前も明治20年ごろ、祖父は道南地方で鉄道枕木の生産を手がけたと聞いております。移住後は農業に従事しましたが、開拓に伴って造材も兼ねることになったわけです。その後、一人娘の婿に喜七を迎え、大正2年、農業と兼業でしたが高橋造材部を発足させました。私は大正9年の生れで、物心ついたころには、農業も家族だけで



技術の向上と製品開発に情熱を注ぎ、顕著な業績を上げておられる昭和木材株式会社の高橋社長をお訪ねし、今までの歩みから今後の課題までいろいろ聞かせていただきました。

（編集子）

は手が回らないため、常時2、3人の奉公人がいました。水田と畑の両方をやっていたり、日雇いの人たちも働いていました。

父は会津（福島県）の生れで、その兄が東旭川で木材業を始めていた関係もあり、高橋家に婿として迎えられてから、木材の仕事が本格的になっていったわけです。また、父は土木建築の請負も手がけ、橋、道路、産業組合の倉庫などの工事をやっていたことが、当時、子供でした私の記憶に残っています。その後、道有林の払い下げを受けるようになり、次第に木材の仕事量が増えたため、昭和16年に旭川市に転居して「木」一筋に入りました。私は道庁職員として昭和13年に厚岸森林事務所（現、厚岸林務署）に入り、昭和15年に名寄森林事務所（現、名寄林務署）に転勤していましたが、昭和16年8月に依願退職し、高橋木材店で父の仕事を手伝うことになったわけです。

加工・合板・集成材の分野に進出

—— 会社の設立から現在までの歩みについて

てお伺いします。

高橋 昭和18年9月、旭川市内の製材工場を買収して、昭和木材有限会社を設立しました。初代社長は、父の高橋喜七です。戦時中でしたので兵器行政本部の指示で徳島市の企業へカバの挽き板を送ったり、海軍経理局の指定工場になって針葉樹製材を始めるなどしていました。当時の従業員は17名でした。昭和20年には、進駐軍の宿舍建設用材の大量注文が製材組合に入り、真駒内駐屯地に納入しました。また、石炭の大増産が国是となって炭鉱住宅建設に拍車がかかり、大量の契約をいただいて納材しました。

翌21年、炭鉱の要請で、加工工場を新設して建具やフローリングの製作を始めました。当社が木材加工面に手を染めた意義深いこの年、私は26才の若年でしたが、父の言い付けで、専務に就任しました。また、この年は新憲法の公布や預金の封鎖と新円との交換など、戦後処理の布陣の第一歩を踏み出した年でもありました。

昭和22年、輸出再開に伴ってインチ材の生産を開始し、また、家具用材として広葉樹製材の本州送りを始めました。この年、当社は高橋木材店と合併し、さらに本州の窓口として東京出張所を設けました。昭和23年には、木材

人工乾燥工場を新設してフローリングの生産増強を計りました。

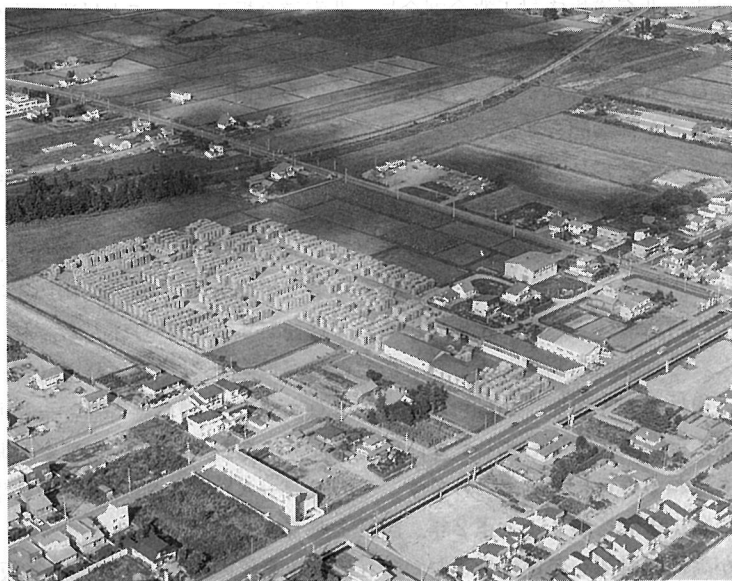
ここまで順調に成長を続けてきた業界も、昭和25年、ドッジラインによる国内の経済不況に突入し、国有林や道有林の木材入札の不落札が続き、翌26年も不況が続きましたが、しかし、輸出インチ材やフローリングは好況にありました。ようやく不況から脱出できたのは昭和27年に入ってからです。当社は、昭和28年に輸出インチ材の増産を計り、翌29年には、15号台風で大量の風倒木が発生したため、エゾ・トド丸太を清水港に満船

で出荷しました。昭和31年、木材人工乾燥工場が全焼したので、道立林業指導所（現、林産試験場）さんのご指導を受けまして、鉄筋コンクリート造りの人工乾燥工場を完成させました。

—— 合板の分野に進出したのも、そのころと聞いています。

高橋 昭和32年です。林業指導所さんのご指導のもとに合板工場を新設し、道材合板とランバーコア合板の製造を開始しました。この年、資本金を850万円に、さらに翌33年には2,000万円に増資しました。合板、インチ材ともに輸出旺盛な時期でしたね。私も昭和34年に欧米に出掛けて勉強して回ったものです。昭和35年、士別ベニヤ株式会社を買収し、当社の士別工場として単板生産を始めました。

昭和35年、初代社長が死去しまして、二代目の社長に高橋丑太郎が就任し、私は代表取締役専務に就任しました。昭和36年に合板のJAS認定を受けました。また、この年に資本金を3,000万円に増資しました。昭和39年、道の要請により海外市況調査員として、欧州を主体に市況の調査をしてまいりました。この年にフローリングのJAS認定を受け、昭和41年には輸出貢献企業の認定も



製材センター（旭川市東旭川町）

受けました。士別工場を合板一貫工場にしたのも、この41年です。昭和42～43年は輸出合板の最盛期でした。昭和44年には台湾からラワンランバーコアを輸入しました。昭和45年、製材工場と加工工場を現在地に新築移転しましたが、この加工工場でフローリングとブロック、並びに木取材の生産を始めました。この年、製材JAS認定も受けました。このころの従業員は367名でした。

昭和46年、ニクソンショックで1ドル360円から300円になりました。経済の見通しが不透明で激動の時代と呼ばれました。昭和47年、石狩町に用地を取得して輸入木材の取扱いを開始し、また、東旭川町下兵村に製材センターを開設しました。この年、製材ならびに合板の構造改善で、国の補助が決定しました。当社は、フローリングから撤退し、造作用・構造用の集成材の生産を開始したのです。

昭和48年は当社創立30周年に当たる年でした。私は北米の合板事情を調査に行ってきましたが、この年は為替相場がフロート制となり、1ドル260円の円高、狂乱物価、10月には第1次オイルショックの発生により一時的でしたが買い占めなども発生し、大変な時代に入りました。高橋丑太郎社長が、北海道木材協会の会長に就任したのも、経済変動の激しくなったこの年でした。

昭和50年、石狩町に札幌出張所を開設し、続いて53年に札幌製材工場を新設しました。昭和57年、高橋丑太郎が取締役会長に就任し、私が三代目の取締役社長に就任しました。また、この年にアラスカ・ヤクタットのビジネスを開始しました。昭和63年、東京、札幌の各出張所を支店に昇格させ、また、本社の社屋も建て替えました。資本金4,800万円、従業員230名、昭和63年9月期の売上高は92億5,000万円です。本年は100億円の売上が見込まれています。

木を最大限に活用した本社社屋

——ただ今、触れられた本社社屋の建て替え移転は、これで3度目と聞いていますが。

高橋 最初の新築移転は昭和20年で、2条通

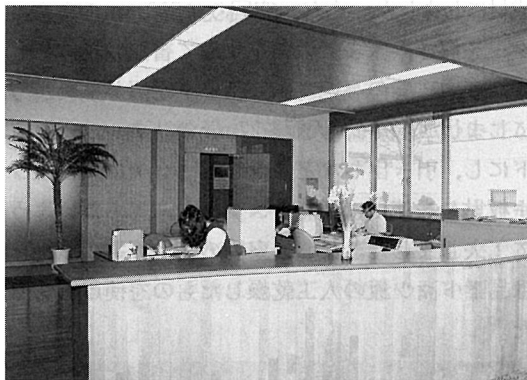
22丁目でした。2度目が30年でこの地です。今回で3度目ですが、昨年、創業75周年、創立45周年を機に33年経過した事務所を建て替えたわけです。取り壊した旧社屋の跡地は駐車場に活用しました。

—— 床面積は広いですね。設計はどなたですか。

高橋 構造は鉄骨2階建て、1階が427m²、2階が419m²、計846m²です。設計・工事監督は旭川市の中原建築設計事務所さんです。施工も地元の吉宮建設株式会社さんです。

—— 社屋の内部を拝見させていただきました。木をふんだんに用い、しかも「木の良さ」を余すところなく表現しているのに感心させられました。建てるにあたり、どのようなことにご留意されましたか。

高橋 最も重視したことは、木材会社にふさわしく、お客さんの出入りに堅苦しさのないこと



開放的な受付カウンター

です。それに明るくスッキリした室内であること、事務機も含め、できるだけ多くの木材製品を使用すること、暖房や空調に意を注ぐこと、将来展望をふまえ余裕あるスペースを確保しておくこと、OA機器に配慮するなど管理費用の軽減を計ることなどです。

これらを実現するため、内装は室内の調和を計りながら、木製品を最大限に活用しようと努めました。しかも、すべて自社の製品を使用することにしました。外装も、羽目板と軒天井に防腐処理

したカラマツパネルを使用しました。窓は消防法の規制がありますので、正面側の1階と2階の窓に断熱サッシを使用しました。窓の木部はシウリザクラです。

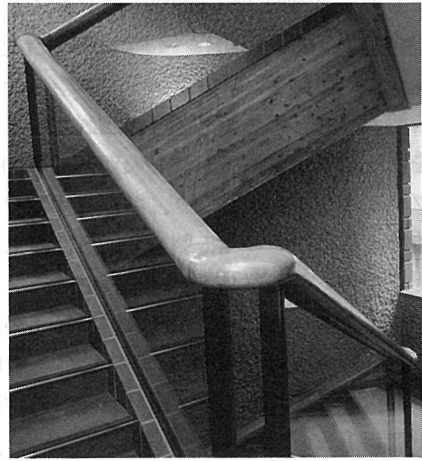
—— 天井、壁、床などには、どんな材料を使われたのですか。

高橋 天井は、玄関ホールにリアルオーク(ナラ)、事務所にニレ^ば柎 0.4mmツキ板貼りの6mm合板を使用しました。壁は、応接室3室、会長室、社長室にナラ・ニレ^{なかもく}の中^ば柎 0.4mmツキ板貼り6mm合板、階段室の壁にリアルパネル(ナラ)、段板はナラの集成材、2階の腰羽目にリアルパネル(カバ)を用いました。床は、1階、2階の廊下・階段部にリアルオークを、また、2階の多目的ホールにリアルバーチを使用しました。間仕切りには、タモクの間柱を用い、特殊ガラスをハネ込み、調和をさせインテリアに気を配りました。受付カウンターと窓回り部材は、ナラ・タモの集成材にしました。また、窓回りに500mmのカウンターを置き、床までの間をすべて書類収納庫にして、室内に背の高いキャビネットを置かないようにしました。机は、天板を27mmのリアルラミウッドにし、引き出しなどはランバーコアにナラ柎ツキ板貼りを使い、機能もスチールに劣らないように工夫しました。なお、室内の壁や天井の下地には、トドマツ板の人工乾燥したものを使用しました。

「日々新たなり」を座右の銘に

—— 営業品目など営業関係についてお伺いしたいのですが。

高橋 広葉樹製材・木取材は年間、1万6千 m^3 程度取り扱っています。集成材は造作用、階段用、カウンター用、家具用で、また、内装部材として、集成床・壁板などを扱っており、集成材・集成加工品の年間の取り扱い量は5千 m^3 です。合板は、シナ合板、シナランバーコア合板、シナ特殊合板、ラワンブロックボード、ラワン合板などで、450万 m^3 を扱っております。針葉樹製材は構造用、造作用、建具用で、合わせて1万6千



集成手摺材

m^3 です。原木は道産、中国産、北米産、北洋産などで、道材原木が4万 m^3 、外材原木8万 m^3 で、合わせて12万 m^3 となっています。また、山林事業は素材生産、森林土木、植林などを行っていますが、造材量は4万 m^3 です。

—— 社長さんの経営方針についてお聞かせください。

高橋 私は「日々新たなり」を座右の銘としてきました。そして、健全経営を常に念頭においています。そのために、需要動向を早く知る必要があります。情報収集に意を注ぐこと、需要の掘り起こし、すなわち新たな需要の創出に心がけること、製品性能の向上と安定供給を計ること、Z D



カウンタートップ(集成材)



リアルオーク (床板)



リアルラミウッド (家具材)

運動を通して品質管理の徹底に努めること、コストダウンに積極的に取り組むこと、明るい職場づくりなどを指針として進めています。

—— ただ今、ZD運動のお話がありました。が、どのようなことでしょうか。

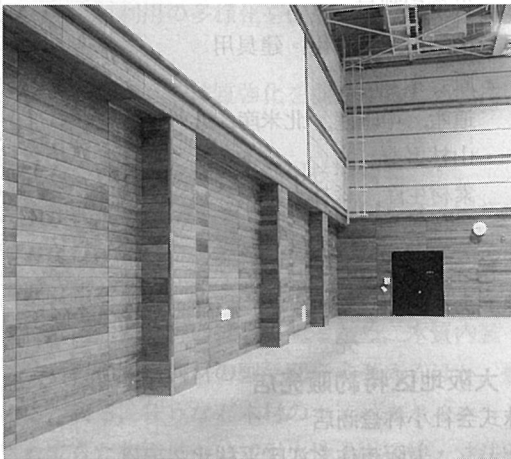
高橋 国内はもとより、海外のマーケットで皆さんに信頼され、喜んでいただける高品質の製品を提供しなければなりません。そのため、当社は昭和45年、ZD運動をキック・オフしました。ZDはZero Defectの頭文字で、無欠点のことです。ZD運動とは、社員一人一人の厳しい管理

と工夫により、誤りとその原因を取り除き、最初から正しい仕事に取り組む体制を整えることです。また、ZD運動開始を機会に、社内報「昭木」を毎月出して現在、228号を数えています。

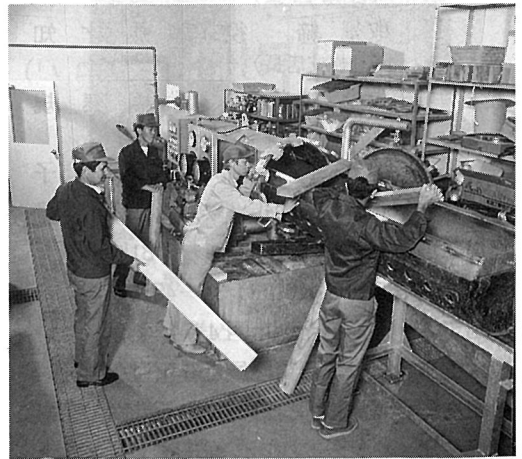
信頼される木製品の安定供給を

—— 木材業界のこれからの課題についてひと言ふれていただきたいのですが。

高橋 現在、人々のライフスタイルに大きな変化がみられ、木が見直されてまいりました。このような時代の要請に応じて、性能の高い製品を



リアルパネル (壁材)



道立林産試験場との開発研究

供給できるようにしなければなりません。現在、技術が向上し、品質も良くなってきていますが、まだ多くの課題が残されています。木の欠点である「狂う」、「腐る」、「燃える」などの防止対策の徹底を計ること、資源の低質化や減少化とはいえ、安定供給のため広く諸外国に資源を求めること、さらに、加工技術の向上や新製品の開発により、信頼される木製品の安定供給に努めることなどが今後の課題だと思えます。

北海道は広葉樹の供給基地としての地位を維持するため、資源対策や加工技術の向上について、行政面のご配慮やご指導をいただくとともに、業

界の一層の自助努力が必要かつ急務であると痛感します。また、建築基準法もそうですが、特に消防法の見直しを求めたいと思います。そのために人々のライフスタイルやオフィス環境に木や緑の必要性を訴え、快適なビジネスや、やすらぎを得られる住居のためのPRが欠かせないと思うのです。また、木材需要拡大のためには、木製品の性能表示や施工マニュアルの提供も欠かせないと思います。

——— 本日は、ご多忙のなか、貴重なお話をいろいろ承り、本当に有難うございました。

(文責 山内 賢治)

昭和木材株式会社

創 立 大正2年

会社創立 昭和18年

役 員 代表取締役会長 高 橋 丑太郎

代表取締役社長 高 橋 二 郎

専 務 取 締 役 高 橋 秀 樹

常 務 取 締 役 高 橋 範 行
(東京支店長)

常 務 取 締 役 小 山 正
(山林部長、士別工場長)

取 締 役 丸 山 余四男
(経理庶務部長)

取 締 役 佐 藤 朝 雄
(営業部長)

取 締 役 安 井 才 知
(札幌支店長)

取 締 役 高 橋 泰 規
(札幌支店営業部長)

監 査 役 高 橋 国 子

本 社 北海道旭川市2条通23丁目右1号

旭川工場 電 話 (0166) 31-4781(代)

F A X (0166) 31-4785

士別工場 北海道士別市西4条12丁目

東京支店 東京都江東区辰己3丁目28-32

札幌支店 北海道石狩郡石狩町新港南1丁目

札幌工場

営業品目

- ・広葉樹製材、木取材
- ・集成材
造作用、階段用、カウンター
家具用、リアルラミウッド
- ・内装部材
リアルオーク、リアルバーチ、リアルラミ
ウッド、集成床板ほか
- ・合 板
シナ合板、シナランバーコア合板、シナ特
殊合板、ラワンブロックボード、ラワン合
板
- ・針葉樹製材
構造用、造作用、建具用
- ・原 木
道産、中国産、北米産、北洋産
- ・山林事業
素材生産、森林土木、植林

傍系会社

株式会社昭和 素材生産、植林、土木、木材販
売

大阪地区特約販売店

株式会社小林登商店

大阪市住之江区平林北2丁目